

<h1>議事録</h1>		作成日	令和6年3月6日(水)
		作成者	総務部 総務課
会議名	第3回宮津市庁舎基本構想等検討委員会		
開催日時	令和6年3月6日(水) 19:00 ~ 21:00	開催場所	宮津市福祉教育総合プラザ 第1コミュニティルーム (ミップル3階)
出席委員	青山 公三：京都府立大学 名誉教授 杉岡 秀紀：福知山公立大学 准教授 大門 大朗：福知山公立大学 准教授 岡田 栄三：宮津市自治連合協議会 会長 黒岡 芳子：宮津市地域女性の会 会長 北尾 ひとみ：宮津市民生児童委員協議会 監事 山口 孝幸：宮津商工会議所 専務理事 笠井 裕代：特別養護老人ホーム天橋の郷 施設長 井上 真哉：京都府建築士会宮津支部 常任幹事		

内 容
<p>1 開 会 委員長あいさつ、前回（第2回委員会）の振り返り</p> <p>2 報告 (1) 宮津市庁舎整備に向けての市民アンケート結果について 資料①：アンケート結果報告書 により事務局説明 (2) 島崎・浜町ウォーターフロントエリア民間資金等活用事業可能性調査の結果について 資料②：調査の結果と今後の進め方 により事務局説明</p> <p>■各委員から事務局報告を受けての意見、感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミップル集約プランの選択が多いがまちの賑わいがどうなるのかが気になる ・いかにお金を使わずに、という視点の意見が多いように感じた ・島崎と浜町をつなぐ部分、また、市街地が面的につながるようなにぎわい創出も考えていく必要性を感じる ・仮に集約プランを選択した場合でも賑わいづくりの面やハード整備だけでなく、事業者支援などソフト面での施策も考えていく必要がある ・アンケートで若い世代においてシンプルで経済的を選択する割合が多く、世代間で違いがでているあたり特徴的だと感じた。 ・アンケートの印象、多くの方に回答をいただいた。関心の高い事柄だったのだと感じる。 ・世代間で選択割合に違いがでている。考え方の違いを受け止めていく必要がある。 ・地域による違いも考えていく必要がある。橋北地域でもサービスを充実するような議論をしていく必要もある ・集約プランを選択した際に店舗の縮小といった生活サービスが低下することへの対処

も検討が必要と感じる

- ・観光客にとって宮津市のファンになっていただけるような、リピートしていただけるような取り組みについての視点もいる
- ・DXについてはいわずもがな推進が必要
- ・ミップル集約プランによる商業施設の削減によって活気がなくなることへの懸念
- ・ミップル内の海側のエリアを海の景観を活かした施設として利用できないか。特に2階の現セリアの場所は、以前は海を見ながら飲食が可能なエリアであり、観光客からの評判も良かった。今は百均になっており残念に思う意見が挙げられている
→市役所に観光客が訪れるような施設としての役割を持たせる
例) ミップルの海が見える場所に市役所の食堂を設け、外部の人も食事ができる施設にする。
- ・ミップルへの庁舎移転が完了した後、現在の市役所をどのように活用していくか議論していく必要がある
→移転後の旧庁舎の活用方法について
丹波篠山市の小学校は廃校後、合宿所として利用されている。
宮津庁舎は耐震強度の問題こそあるが、面積があり外観も良く、合宿所や観光目的での宿泊などに利用してもらうことができるのではないか
例) 市役所に泊まる体験ができる施設 など
- ・災害時の懸念。津波による被害が出やすい海側のミップルに庁舎を移転して被害が出た場合の不安。ミップル自体も古い建物で不安があるため市民への説明が必要
→無駄な投資になるのでは？懸念があるため丁寧な説明が必要
- ・デジタル化の推進を検討。今は高齢者もスマホを持っている。高齢者を対象にセミナーを開催するなど補助をしていく
- ・宮津市の地元の海産物を使った土産などを購入しやすい施設が必要。舞鶴市のとれとれセンターのような立ち寄りやすく分かりやすい施設が理想
- ・宮津市全体でのデジタル化を推進すべきである。高齢者もスマホを持つ時代になってきている。使い方が分からない人には指導や補助をするなどの対応をしていくべき
- ・現庁舎は建築家から貴重な財産であるとの意見がある。調査をしたいという建築家や大学生が多数いる。興味を持った事業者などが別途組織を作る際に活用できれば
- ・島崎浜町周辺エリアの活性化を進めることが重要ではないか

3 協議・検討

(1) 提言内容の検討

資料①：アンケート回答内容の自由記述・アンケート調査票
と前回資料により事務局説明

【委員意見】

- ・問題がクリアできるのであれば、集約型プランが最も経済的かつ理想的である
- ・周辺の賑わいや利便性を意識したものにしていく必要がある
- ・地震、津波などの災害発生時への懸念があるため、対策を説明する必要がある
- ・財政難の対抗策としては集約型プランを進めていく必要がある
- ・効率的に働きやすい環境づくりが優先されるため「機能的な庁舎」のコンセプトを重要視したい
- ・機能的であれば災害への対応も迅速になるため災害に強い庁舎というコンセプトにも当てはまる

- ・働く人にやさしい機能的な庁舎を目指すことで、庁舎の好印象にもつながる
- ・コストを抑えた上で魅力を引き出す仕掛けを考えていく必要がある
- ・集約プランを進める場合、市役所としての機能を維持しつつ周辺の賑わいも作っていく必要がある
- ・ミップルだけでなく島崎周辺を活用していくべき
- ・ミップルの商業施設を削減する分、島崎周辺に賑わいをもしくは、市役所の機能を活用しながら賑わいを作っていく
- ・誰のために何を目的とした庁舎とするか、市民に伝わりやすいコンセプトが必要である
- ・宮津市を象徴するものや名物は、燈籠流し、盆踊りなど、観光客も参加することができる行事が多い。より参加しやすくなり名物を活かせるような施設が必要である
- ・宮津市の3種の顧客が魅力を感じる庁舎に。宮津の一つの武器にしていく
 市民 用事がなくても来たくなる、サードプレイスになるような施設に
 市職員 気持ちよく安心して仕事ができる庁舎に。地震が起きた時の安全性
 観光客 思わず立ち寄りたくなる施設に。海や橋立を庁舎から眺めてSNSに投稿する。
 観光目的で立ち寄ってもらえる仕掛け
- ・2階を活用して市民や観光客の憩いの場にしていく。見せる化をしていく
- ・市に活気があればまちづくりもスムーズに進めていける
- ・課題点として挙げられる点は象徴がないこと
- ・市民に協力してもらい島崎浜町周辺エリアに人が立ち寄るような仕掛けをつくる

(2) 提言内容のまとめ

<基本コンセプト>

- ・利用しやすく親しみのある庁舎、災害にも強く、安全・安心を確保する庁舎、シンプルで経済的な庁舎、機能的な庁舎の4点する

<立地場所及び整備手法の方向性>

- ・整備手法は、ミップル集約プランとする

<その他>

- ・現在の市庁舎本館に係る事項は、本委員会とは別に、検討組織を設置し、その在り方について議論を深められたい
- ・新たなにぎわい創出のため、市庁舎の移転を契機とした島崎・浜町エリアの再開発に向けた議論を深められたい
- ・市庁舎の移転に伴い、ミップルビルの売り場面積が減少することから買い物利便が大きく損なわれることのないよう周辺エリアでの対応も含め、配慮されたい
- ・海が見える庁舎という優位性を活かし、市を象徴する機能も検討されたい

を付記する

以上、提言としてまとめることとする

→全委員了解

4 今後の予定

- ・まとめの内容をもとに答申文案を事務局で作成する
- ・その上で、改めて委員の皆様にご確認をいただき、それを踏まえて委員長と調整の上、答申書を確定させていただく

→全委員了解

5 閉会

